

春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



今年のノーベル賞受賞者が発表され、医学生理学賞に大村智・北里大学特別栄誉教授、物理学賞に梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長が選ばれた。受賞の理由は、それぞれ「寄生虫による感染症の新たな治療に関する発見」「ニュートリノが質量を持つことを示すニュートリノ振動の発見」である。

お二人とも「微生物のおかげ」「ニュートリノに感謝」と言い、みんなの力や先輩の功績を口に、謙虚な姿勢が素晴らしい。どこに行っても土を採取して微生物の発見に努めるとか、超微細なデータを集めて続けて検証するとか、根気強く成果を追い続けて得た発見であり、「苦勞も

ノーベル賞受賞に思う

並大抵なものではなかったと思う。梶田氏は埼玉県の出身であり、埼玉県人として誇らしく思う次第である。

研究環境の充実を

■遺言に基づく賞

ノーベル賞は、ダイナマイトやさまざまな爆薬の開発・生産によって巨大な富を蓄積したアルフレド・ノーベル（1833-96年）の遺言状に基づいて創設された賞である。ノーベルの発明が軍事兵器の破壊力を大きく増大させたにもかかわらず、彼は熱烈な平和運動家であった

という。

遺言状は次のような内容である。「私の残っている換金可能な遺産の全ては、次のように取り扱われることとする。指定遺言執行者により確実な証券に投資された遺産金は基金になる。その利息は毎年賞という形で、前年に人類に最も偉大な利益を与えた人物に配分される。前述の利息は5等分され（中略）。

つと、最もふさわしい人物が賞を受けることになる」

遺言状通り執行されるまでにいくつもの難関があつたが、スウェーデン政府もこれを後押しして、実現にこぎ着けた。初めての授賞式は1901年12月10日。その日はノーベルの命日で、毎年この日に授賞式が行われ、第1回の物理学賞はレントゲンが受賞している。ノーベル

賞が創設された当時は、スウェーデン国王がノルウェー国王を兼ねており、05年に同君連合が解消された後も平和賞の授与機関は変更されなかった。

なお、経済学賞は、68年にスウェーデン銀行が創立300周年を記念してノーベル財団に寄付した基金で創設されたもので、ノーベルの意向とは関係ない。選考は、スウェーデン王立科学アカデミーが行っている。

■政府の役割重要

わが国は科学技術立国を標榜して、95年に科学技術基本法を制定し、それに基づき5年ごと

に「科学技術基本計画」を策定している。2001年に中央省庁再編で内閣府が創設され、基本計画の策定は内閣府の任務となり、第二次科学技術基本計画

が策定された。その間に「50年間にノーベル賞受賞者30人程度」と書かれている。国際的に評価される科学者を多数輩出できるように研究環境を整備する

という意味も含め、書かれたもの

である。実際、この15年間で15人（研究時日本国籍の人を含む）が受賞しており、誇らしい実績だと思つた。

新聞などによると、ノーベル賞受賞候補の日本人はまだたくさんいて、今後もうれしいニュースが期待できそうである。ただ、樂觀論ばかりではない。今回の受賞は、70年代から90年代にかけての発見であり、受賞に結び付くまで20年から40年の歳月を要している。今後とも長く受賞者が出るためには、十分な研究環境を現在も将来も整えていくことが必要である。

国の研究関係予算はこのころ微増であり、限られた研究予算の獲得のために成果主義に傾きつつある。腰を据えて研究に取り組むために、研究者の処遇面での改善を求める声も大きい。経済の成長が研究の充実につながるという意見もある。

官民の研究環境の充実向上のため、経済政策も含め総合的な取り組みの必要性を踏まえ、旗振り役としての政府の積極的な関わりを強く望む次第である。

（次回は11月8日）